



# 支援室だより

大阪府立思斉支援学校  
令和6年度 第1号

これまで「思斉のしせい」の名称で発行を続けてきた支援室だよりですが、今年度より「支援室だより」と名称を改め、小学部、中学部、高等部での様々な取り組みを2回ずつ、年間6回の発行で紹介します。この「支援室だより」が思斉支援学校の様子を知っていただく機会となり、先生方の指導・支援のヒントになれば幸いです。そして記念すべき「支援室だより」第1号の担当は高等部です。今回は高等部の「校内実習」について紹介していきます！

本校高等部では前期、後期に実習期間が設定されています。学年によって期間は異なりますが、実習期間の1～2週間は通常授業を行わず、卒業後の職業生活を見据え、様々な作業に取り組みます。進路希望によっては企業等、校外で実習を行う生徒もいますが、今回は校内で行っている実習（作業内容）を紹介します。

## 【ステップルの組み立て及び箱詰め】

ステップルとはカバーのついたコの字型の電線留め金具のことです。実習では、コの字型の金具にカバーをはめていく作業に取り組みますが、金具の先が針のように尖っているため、ケガをしないよう集中して作業に取り組む必要があります。完成したステップルは100個ずつ箱に詰めていきますが、金具の先が箱を貫通して外に出てしまうと、最初からやり直します。箱を無駄にしないよう詰め方を工夫する必要があります。



## 【シャボン玉ストローの組み立て】



シャボン玉に必要なストローですが、写真のストローはカニの形をした物で、カニの表面、裏面、ストローの3つの部品を組み立てる必要があります。力を入れすぎるとカニの部分にひびが入ってしまったり、ストローが裂けてしまったりして、製品として成立しなくなるため、慎重かつ丁寧に作業することが求められます。

## 【製品の袋詰め】

テープ付きの袋に製品を詰めていく作業ですが、製品の向き（表裏、上下）を確認して詰め、テープがよれないよう封をします。製品と袋のサイズがほぼ同じである場合が多く、手元をよく見て作業に取り組まなければ、袋が裂けてしまう恐れがあり、継続した集中力が必要です。また、テープの粘着部分にごみやほこりが見つからないように、「清潔」「衛生」の意識も重要です。



今回紹介した作業は校内実習の作業内容の一部です。上記の作業の他にも蝶番の組み立てやボールペンの分解及び組み立て、袋のシーラー作業等、生徒たちは3年間で様々な作業に取り組みます。また、作業内容だけでなく、「立ったままでの作業」「2人1組での作業」等、作業の取り組み方も変わります。生徒たちが自分の得意不得意を知り、報告・連絡・相談の習慣をつけ、仕事のイメージを持つためにこの校内実習の意義は大きいと言えます。

